

多様化する地域コミュニティにおけるキリスト教会の役割について

—東京 23 区内の教会を対象として—

建築学専攻

プロジェクトデザイン研究

序章 はじめに

0-1 研究背景

近年、地域コミュニティの担い手である高齢者の増加と自治会の減少が進み、地縁や絆の希薄化が顕著となっている。背景には単身者や核家族の増加、通勤距離の拡大などの社会的要因がある。これにより、地域社会と個人との結びつきが弱まり、「無縁社会」が進行している。一方で、地域の課題に取り組む NPO や市民グループが活動しており、地域コミュニティの形態が多様化している。こうした中、宗教施設は信頼構造を備え、地域社会とのつながりを生む拠点として注目される。宗教の社会貢献が地域社会とのつながりや信頼基盤の再構築に寄与する可能性を探る。

0-2 研究目的

本研究では、東京 23 区内に存在するキリスト教会を対象に、その立地や地域活動を把握し、教会の特性と地域活動との関係性を分析する。これにより教会の地域活動の必要性、地域活動時の空間転用性やその活動が周辺環境に与える影響を明らかにすることを目的とする。

1 章 日本における宗教観

1-1 日本人の宗教意識

文化庁が発行する「宗教年鑑」によれば、神道系 8,396 万人、仏教系 7,075 万人など、信者数の合計は日本の総人口を超える。

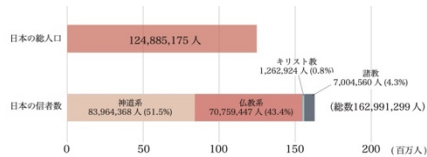


図1 日本の信者数 (令和4年12月31日現在)

これは各宗教団体の独自の定義や数え方によるものであり、実際は神社でのお賽銭、寺院での墓参り、ミッションスクールへの通学など、無意識に宗教と関わる例が多い。世論調査では、信仰心は減少傾向にあるものの、日常生活における宗教的行動は一定数維持されていることから、日本人が信仰心の有無にかかわらず、無意識に宗教と関わりを持ち続けていることが示唆される。

1-2 日本宗教史

日本では宗教の影響が希薄化しているが、神道・仏教・キリスト教は歴史の転換期ごとに文化や社会に深い影響を与え、日本人の精神や生活の一部を形作ってきた。それぞれの転換期を通じて、宗教の役割や位置づけは変化し、宗教的活動以外にも影響を及ぼしている。歴史的な変遷を把握することは、現代の宗教観やその多様な機能の理解にとって重要である。

1-3 宗教施設の信仰以外の役割

明治時代以降、キリスト教会も児童養護施設やホームレス支援、災害支援など、時代に応じた形で地域社会との関係を築いてきた。宗教施設は単なる宗教行事の場にとどまらず、感謝や思いやりの精神を育み、福祉や社会貢献活動の基盤として重要な役割を果たしている。日本人は宗教の存在を意識しにくい一方、近年では宗教施設が地域交流やイベントの場として活用され、都市における重要な建築ストックとして地域コミュニティに貢献していると言える。

MJ23146 松浦 英利子

指導教員 岡野 道子

2 章 東京 23 区の教会による地域活動について

2-1 用語の定義

教会の活動を①礼拝・ミサ、②集会、③施設訪問、④拠点の提供、⑤交流活動の5つに細分化する。本研究では、地域活動とは拠点の提供および交流活動（訪問活動を除く）と定義する。

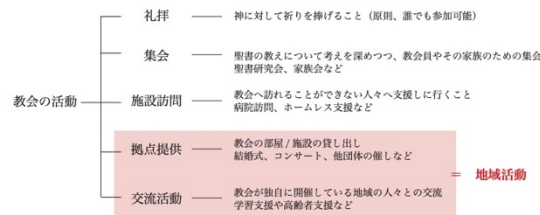


図2 教会の「地域活動」の定義

2-2 東京 23 区の教会の属性

本研究では、キリスト新聞社が発行している『キリスト教年鑑』（2024 年度版）に掲載されている 8,513 堂のうち、東京 23 区内に立地する 677 堂を対象とする。

さらに、教会を宗派、設立年、会員数、外国語礼拝や教会学校の有無、地域活動の有無などで分類し、地域活動を行う教会を抽出した。その結果、地域活動を実施している教会は 219 堂にとどまり、すべての教会が地域活動に積極的ではないことを示している。

表1 東京 23 区内の地域活動の有無とその内訳

区	教会の基本情報				教派の内訳						
	教会数	地域活動	外国語礼拝	子供礼拝	日本基督教団	日本聖公会	プロテスタント他	カトリック	正教会	その他	附属施設あり
足立区	30	15	7	18	5	0	17	3	0	5	4
墨田区	19	5	5	7	3	2	11	2	0	1	1
板橋区	29	9	7	18	4	0	20	2	0	3	2
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
文京区	23	8	4	12	8	2	7	5	0	0	6
港区	22	10	4	15	8	4	7	3	0	0	3
目黒区	16	5	0	14	6	1	6	1	0	2	3
計	677	219	117	430	198	32	333	48	2	64	71

活動内容は、礼拝堂の音響設備を活用したコンサート、音楽教室、子ども食堂、料理教室など多岐にわたり、国際交流の場として外国語礼拝や語学教室も実施されている。地域活動の実施は牧師の裁量によることが多いことから、簡単に始めやすい活動や教会の設備を活用した活動が多いことも特徴的である。

2-3 教会の立地と地域活動の関係性

教会の立地と地域活動の関係性を明らかにするため、地域活動に参加する対象者として(1)子ども、(2)高齢者、(3)外国人の3つのグループに注目し、地理情報システム(ArcGIS)を用いて定量的な分析を行う。具体的には、縦軸に「人口密度」、横軸に「類似施設の数量」の4象限を設定し、教会が所在する地域に対してどの程度ニーズが存在するかを評価する。

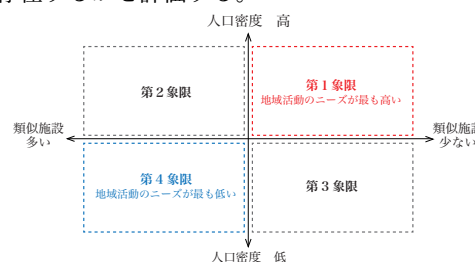


図3 4象限マップ

2-4 本章の考察とまとめ

(1)は、第1象限に属する教会の中で地域活動を実施していない教会が比較的少ないため、新たに子ども支援を開始する際の障壁が低いことが示唆される。一方、(2)は、第1象限に属し、地域活動を実施している教会が多いものの、同じく第1象限に属しながらも地域活動を実施していない教会も一定数存在する。これは、介護資格が必要であることや、各区の社会福祉協議会による支援体制が充実していることから、教会が必ずしもその役割を担う必要がない状況を反映している。(3)は、そもそも外国語礼拝を行っている教会自体が少なく、第1象限に属していながらも活動を実施していない教会が多く見られることから、ニーズと実施の間に大きなギャップが存在しており、支援の充実が求められる。

以上のことから、多くの第1象限の教会は地域ニーズを抱えながらも十分に地域活動を実施できていない現状が明らかになった。これらの教会が積極的に地域活動を開始することで、地域ニーズに即した有効な取り組みが可能となり、持続可能な居場所としての役割を拡大すると考える。

3章 地域活動を行っている教会の実態

3-1 調査対象

本章では、第2章で分類した(1)子ども、(2)高齢者、(3)外国人に注目し、それぞれの対象に対して特徴的な地域活動を行う教会を6つ選定し、その地域の実態を把握する。

表3 調査対象一覧

地域活動参加対象	子ども		
	学習支援、教区、子ども食堂	東区北キリスト教会	育英サロン
教会	東区ライトハウスチャーチ		池戸教会
			
	第4象限	第1象限	第4象限
地域活動参加対象	高齢者	外国人	子ども
	体験教室、バスベル	コミュニティカフェ	英語支援
教会	久遠キリスト教会	福音ルーテル東京教会	船木教会
			
	第1象限	第1象限	第2象限

3-2 分析方法

前項で選定した各教会について、実際に現地を訪問し見学を行った。地域活動時における教会の使用状況や、牧師へのインタビューを通じて、教会の役割や地域との関わりを深く理解する。それらの結果を踏まえ、周辺環境における類似施設を含む特徴を把握し、各教会が地域に与える影響を明らかにする。

3-3 考察とまとめ

本章では、第1象限に分類された教会でも地域活動が成功しているとは限らないことが明らかになった。その要因として、地域ニーズに合った活動が行われていない場合や、類似施設の多さが影響し、教会の認知度が低く、利用率が低迷している点が挙げられる。このことから、どの第1象限の教会でも地域活動を行うことが必ずしも地域の居場所になると限らない。一方で、新宿大久保エリアは理想的な地域活動の展開モデルとして挙げられる。「外国人の災害支援」という共通理念を掲げ、教派を超えた協力体制が構築されている。

このことから、教会単独で地域ニーズに応えるのには限界があると言える。教会同士や他施設との連携を強化することで、教会の認知度を高め、社会的ニーズに応え

る体制を整えることができる。その結果、教会の地域活動が活発化し、参加者を増やし、地域の居場所としての機能を発揮するという好循環が生まれると考えられる。

4章 設計提案

4-1 設計概要

本提案では、「阿佐ヶ谷ジャズストリート」という町おこしへの参加を契機として、教会間の自然発生的なつながりが生まれている阿佐ヶ谷地域を対象とし、地域住民の多様なニーズに応える社会福祉協議団体を中心とした教会間のネットワークの強化を目指す。具体的には、商店街近くに新たな礼拝堂を計画し、その賑わいを住宅街に波及させる取り組みを行う。また、敷地内にある既存建物を改修し、地域活動の拠点として活用することで、礼拝堂があればどの地域でも展開可能な汎用的モデルの構築を図る。



図4 対象敷地図 (S=1/1000)

4-2 プログラム

本計画では、地域活動の効果を最大化することを目的として、まず周辺の教会と曜日が重ならないよう配慮しながら地域活動を計画・実施する。さらに、多様な背景を持つ地域住民が気軽に参加できる教室や文化交流イベントを開催し、コミュニティ形成を促進することを目指す。また、多目的スペースを設置して、他教会の牧師や社会福祉協議団体の関係者が集い、情報共有を通じた協力体制の強化を図るための場を提供する。

曜日	阿佐ヶ谷教会	阿佐ヶ谷東教会	久遠キリスト教会	馬橋キリスト教会	提案教会
月			バスベル		高齢者交流 (体験)
火	礼拝		体験		子育てサロン 学習支援
水	新幹会	幼稚園	ハンズベル	新幹会	コミュニティカフェ
木	子育てサロン				メディカルカフェ 学習支援
金			体験		日本語教室 子ども食堂
土		子ども食堂	オカリナルーム		語学教室 音楽教室 料理教室
日	礼拝、教会学校	礼拝、教会学校	礼拝、教会学校	礼拝、教会学校	礼拝、教会学校
イベント	阿佐ヶ谷ジャズストリート、バザー、コンサート				

図5 地域活動の実施計画

こうした取り組みを通じて、教会間のネットワークの中核的な拠点として機能する施設の実現を目指し、地域社会における教会活動の発展と、さらなる地域貢献を期待している。

5章 おわりに

教会が地域活動を積極的に展開することで、平日に利用されていない教会の余剰スペースを効果的に活用することができ、教派の枠を超えた協力体制が地域全体の有用な居場所としての機能を高めることが期待できる。

本研究が、社会福祉協議会や地域団体と教会が連携するためのモデルとなり、地域コミュニティの維持・発展に寄与する一助となることを願う。

参考文献

1) 稲葉圭信/櫻井 義秀 (2009) 「社会貢献する宗教」世界思想社
2) 小林利行 (2019) 「日本人の宗教的意識や行動はどう変わったか ～ISSP 国際比較調査「宗教」・日本の結果から～」 NHK 放送文化研究所
4) 末木文美士 (2006) 「宗教と学問 (2) : 宗教は危ない! ?」 学術俯瞰講義資料 1
5) キリスト教年鑑編集委員会 「キリスト教年鑑 2023-2024」
6) 文化庁宗務課 「令和5年度 宗教年鑑」